

こまった こまった どうしよう…

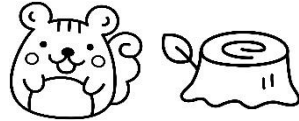
〈話しかけのコツ〉

子どもには話しかけて！って言われるけれど…

何をどう言えばいい？ 気がつくと言いで過ごしちゃう。

話すことが無くなってしまふ…。

そんなことはありませんか？



**** ここでは話しかけのコツを紹介します。簡単なものですが、できそうなところから構えずに、一日一回からやってみてください！***

コツ① 子どもの声・言葉・行動をそのまま真似する

大人が同じことをしてくれるのは子どもにとってうれしいこと。

わかってるよ！ 見ているよ！ おもしろいよ！ と伝えていることになりま

す。
例： ボールを投げたら、同じ動作でボールを投げる。

「あー」と言ったら同じ口調で「あー」と真似する。

コツ② 行動や気持ちを言葉にする

上手く表せない心の中を代わりに言うと、気持ちをわかってもらえたと感じて安心。言葉への興味が増えます。

例： くしゃみをしたら、「はっくしょんしたねー」

転んだら「痛かったねー、びっくりしたねー」

コツ③ 様子を表す言葉(擬態語)を使う

ジャブジャブ・コロコロ・ゴトンゴトンなど同じ音を繰り返す擬態語は理解しやすく、真似しやすい言葉です。

例： 「車ビュンビュン走ってるね」「おみずジャブジャブー」

コツ④ 子どもの行動や周りの様子を実況中継する

子どもを世話しながら、散歩しながら、どこでもできます。子どもが見ている状況と言葉がつながって、興味が増していきます。

例： 散歩しながら「とり、飛んでるねー」「お花きれいに咲いてるよ」「あっちからワンワンきたね。」

コツ⑤ 大人が自分の行動や気持ちを口にする

無言で行動するより、お母さんの気持ちや意図が伝わります。

例： 財布を探しながら「お財布ないなー、こまったなー」

コツ⑥ 大人からあいさつをする

あいさつは気持ちを伝える大事なツール。繰り返し言われることで受け入れやすく、自分でも言えるようになります。

例： 「ありがとう」「ごめんね」「おはよう」「さよなら」

☆☆子どもがうまく言えない時☆☆

「バナナ」→「あーな」など、話し始めの子どもはみんな上手には話せません。「違うよ」と否定したり、「もう一回言って」などの**言いなおし**は、話す**意欲を低下**させてしまいます。「あーなだねー、バナナおいしいね」と**さりげなく正しい見本**を見せましょう。

**無理せずに、思い出した時にちょっとずつ。
楽しい時間がきっと増えていきますよ！！**

